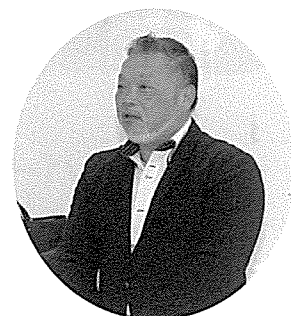


名古屋支部

いざという時、人命救助につながる 「救急救命講習Ⅰ」を開催



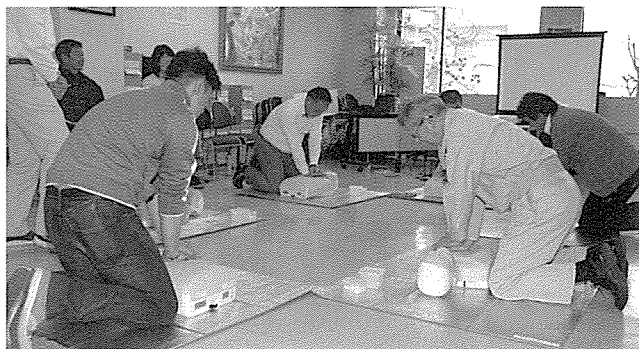
挨拶する新美支部長

名古屋支部（新美三良支部長）は1月27日（水）と3月23日（水）の2日間、午後1時から当協会3階会議室において、名古屋市救急救命研究所応急手当研修センターの協力により、人命救助につながる正しい応急手当を学ぶ「普通救命講習Ⅰ」が開催されました。

この講習には支部会員21社27名（1月27日・10社15名／3月23日・11社12名）と協会職員1名が参加しました。講師は同センターから4名（1月27日・杉田清美氏・近藤俊秋氏／3月23日・米森豊貢氏・後藤文隆氏）の方にご協力頂きました。

はじめに応急手当の一連の流れについて説明があり、その後、3名1組のチームになり、心肺蘇生法、AEDの使い方を5つのパートに分けて実習しました。実習では5つのパートの手順に沿って説明と実技の指導があり、1つ目が出来ると2つ目の手順に移り、それができると1つ目、2つ目を連続して行い、同じ動作を繰り返し、繰り返し練習を重ねました。

最初はぎこちない動きでしたが、練習を重ねる毎に参加者のかけ声も大きく力強くなり、動きも機敏になり、一連の応急手当が途切れることなく出来、自信につながったことと思います。特に胸骨圧迫30回と人工呼吸2回の組合せは3名のチームワークもよく、実習の成果が表われたと思います。



胸骨圧迫をかけ声を掛けて実習

<第1パート>

- 反応の確認…肩を叩きながら呼びかけ、反応があるかどうか確認します。
- 助けを求める…119番通報、AEDの手配を依頼します。必要に応じて、より多くの人を呼んで来てもらう様に依頼します。

<第2パート>

- 呼吸の確認…脇腹の動きを見て、「普通どおりの呼吸」があるかを10秒以上かけずに確認します。

<第3パート>

- 胸骨圧迫…「普段どおりの呼吸」をしていなければ、胸の真ん中に両方の手のひらの付け根を重ねて、真上から圧迫します。

<第4パート>

- 気道の確保・人工呼吸…頭を下げ、あごを上げて息をしやすくしながら（気道確保）、指で鼻をつまみ、大きな口を開け、息を約1秒かけて吹き込みます。「胸骨圧迫30回、人工呼吸2回」の組合せをAEDが到着し解析が始まるまで、救急隊に引き継ぐまで、もしくは目的のしぐさが見られるまで、又は呼吸が正常になるまで続けます。

<第5パート>

- AEDの使い方…AEDの使い方では ①電源を入れる。 ②電極パッドの装着 ③心電図の解析 ④除細動（電気ショック）の実施の一連の動作を音声メッセージの指示に従い、何回も何回も繰り返し練習しました。

参加者からは、心肺蘇生はいつまで続けるのか、携帯が掛けられない時はどうするのか、といった質問もあり、一刻を争う応急手当の大切さを学びました。



機器を使ってAEDの使い方を実習

最後に「のどが詰まった場合」の気道異物の除去について、上半身の人体模型を使って①咳による異物の除去 ②胸部突き上げ法 ③背部叩打法の応急手当や注意点について講習がありました。また、大出血時の止血法についても直接圧迫止血法の説明がありました。講習終了後、参加者全員に講習修了証カードが手渡されました。